

来夏参院選

見坂氏が出馬表明

2025年7月に予定されている参議院通常選挙の全国比例代表区に、5月に国土交通省を辞職した見坂茂範氏が出馬を表明した。佐藤信秋参院議員の後継として、建設産業界の職域代表での上位当選を目指す。全国建設業協会が4日に都内で開いた定時総会の場で明らかにされ、全建の今井雅則会長が見坂氏に推薦状を手渡した。

総会冒頭、来賓として出席した佐



見坂氏（左）に推薦状を手渡す今井会長

今井全建会長 推薦状を手交

藤参院議員が「報告がある」と切り出し、「全国比例区としては、新しく見坂氏を立てることにした」と明言した。来夏参院選の職域代表候補を巡る体制が、対外的に発表されるのは初めてとみられる。

足立敏之参院議員は「見坂氏は、国交省で技術調査課長などを務め、特に入札契約制度に詳しい。人格も温厚で、ぜひ応援してほしい」と話した。

全建の協雅史顧問は「この時期によく決断してくれた。建設関係の比例代表として出る意味をいま一度考えてほしい。皆さんの代弁者として専門に働く国会議員であり、業界全体で応援してもらいたい」と呼び掛けた。

推薦状を受け取った見坂氏は「大変に身の引き締まる思い。現在3期17年、多大な功績のある佐藤先生の後を継いでくれと言われ、本当に自

分でもいいのかも考えたが、決断し、5月に近畿地方整備局長の職を辞した。今、業界が抱えている課題は私なりに把握しているつもりだが、まだまだ分からないことがたくさんある。業界のさまざまな意見を聞きながら、頑張っていきたい。これまでは国交省という役所の立場から建設業界を見てきたが、今後は逆の立場になると思っている。業界の側に立ち、必要に応じて国交省にも意見をしていく」と語った。

見坂氏は、京大大学院工学研究科修了後に建設省（現国交省）に入省した道路畑の技官。道路局企画課評価室長、福岡県県土整備部長、関東地方整備局企画部長、官房技術調査課長、近畿地方整備局長などを歴任した。

全建総会ではこのほか、佐藤参院議員が自身の今後について、「国土強靱化も品確法も、中身をしっかりと詰めていかなければならない。これらのことはやるだけやるし、いろいろなことはこれから考えていきたい」と述べた。